

## 第 2 回 裾野市の教育のあり方検討委員会

### 議事録（要点筆記）

日時：令和元年 8 月 29 日（木） 15：00～17：00

場所：裾野市役所 地下会議室A・B

出席者：委員長 村山功 副委員長 湯山芳健

委員 横山碧 委員 池谷淳子 委員 三浦靖幸

委員 小野島洋子 委員 荻田和彦 委員 朝妻正昭 委員 山中なほみ

#### 【教育委員会】

教育長 風間忠純 教育部長 杉山善彦 教育総務課長 勝又明彦

学校教育課長 荒井賢二 生涯学習課長 木原慎也

学校教育課課長代理 渡邊清 教育総務課課長代理 二ノ宮貴之

教育総務課主幹 鈴木直美

傍聴人 12 名

#### 1. 開 会

教育部長

ただいまから「第2回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を開会いたします。

どうぞよろしく願いいたします。

#### 2. 教育長あいさつ

7月23日に開かれた第1回の委員会では、委員の方々から、日頃お考えになっている意見を出していただき、今後の議論の土台を作っていただいたと思っております。

本日の委員会では、前回さらに求められました資料をお示しして、審議の材料にさせていただきたいと思っております。

さらに、本日の議題にアンケート調査についての項目を加えましたが、今回のアンケート調査は、こちらの意見についてのアンケート調査というよりも、市民の意識調査としての意味合いを打ち出しております。アンケートには、学校の再編成の項目だけではなく、前回の教育振興基本計画作成時との推移についての項目も含まれております。

本委員会の長期の計画におきましては、今回までの委員の方々のご意見やアンケートの結果を踏まえて、今後は提示いたしました計画に従い、これからの教育についての議論を深めてい

ただく予定です。

学校の再編成につきましては、学校マネジメントの観点、それから教育活動の効果の観点、そして、地域の核としての役割を果たすという観点など、幅広く又十分な議論を必要とするものと考えております。

ご審議のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3. 委員長あいさつ

皆さんこんにちは。今回は熱心にご議論いただき、本当にありがとうございました。

前回の議論の中では、この会議がただ単独にあるわけではなく教育振興基本計画等、以前からずっと引き続きされてきた議論、そしてこの先も続いていく議論もある中、この委員会はこれまでの議論にとらわれることなく、皆さんが色々な知恵やご意見を出していただき、現状を変えていくような取り組みについて議論いただきました。それは、特区のような仕組みを活用して、現状を変えていくような取り組みを考えた方が良いのではないかと、或いはどうしても小規模校に話が偏りがちになりますが、大規模校の教育という点も考えてはどうかと色々なご意見をいただき、本当にありがたく思います。

ただし、ご出席されている委員の皆さんが学校の関係者であり、保護者であり、そして各地域の皆さんであり、個々の学校や地域の実態を踏まえたご意見をきちんと議論に反映していくことが必要になるかと思えます。

したがって、今回は広く一般的なご意見を伺ったのですが、本日はもう少し個々の実態を踏まえながら、市全体の教育をどう考えるかという方向、少し地域色といいますか、学校色が出てくる方向で議論を進めていきたいと思えます。

皆さん、ご協力をお願いします。

### 4. 協議事項

#### (1) 教育課題の整理

第1回 検討委員会より 委員会での指摘事項に対して

説明者：教育総務課課長代理

- ① 今後の学校別児童・生徒数予測
- ② 児童生徒数推移（S. 20年代～）
- ③ 一人当りの学校別占有面積

について説明

説明者：学校教育課長

- ④ 特区制度
- ⑤ 支援員数の減少、教師の多忙
- ⑥ 不登校の背景（学校環境）

について説明

説明者：教育総務課課長代理

⑦ 財政的な見通し

について説明

説明者：教育総務課課長代理

1：校舎等の建築一覧

2：小中学校施設 建築後 60 年経過年一覧

※子ども達の学習環境を考える上で特に重要となる課題

①今後も児童・生徒の人数の減少傾向が継続すること

②施設の老朽化が進行していること

③施設の耐用年数の迫る施設が多数存在し、更新時期も同時期となること

について説明

【意見等】

委員長

前回の委員会で、こういった資料を出していただきたいとのご意見がありましたので用意していただきました。これも含め、本日の議論に関しては、次の協議事項である「子ども達の学習環境としてあるべき学校の姿とは」に皆さんからのご意見をいただく時間を多く取りたいと思いますが、只今説明のあった資料に関して、もう少しこのあたりを説明してほしい等、何かありましたら、ご発言いただきたいと思っております。

委員

特認校についての説明がありましたが、特認校制を取り入れている学校の中で、制度を採用した理由等、代表的なもので構いませんので、もう少し説明をいただけないでしょうか。

事務局

特認校制につきましては、先程の説明と重複する点もありますが、いずれも私の調べた範囲では、小規模校にその導入の傾向がありました。最後にご説明した小田原市の学校は交通の便も良いのですが、その他の学校は中山間部にあるような学校で、児童生徒数が減少しているところが多く見られました。

例えば、静岡市にある 3 校も、やはり中山間地にあり、豊かな自然の中で小規模校の特色を生かした教育を行っていることがホームページでもうかがえました。そのような中、市内から児童生徒を募集し、学校を活性化していく形で行われているものと認識しました。

委員長

静岡市の事例は、大川、井川、梅ヶ島の小中学校となった学校であると思われまます。また、沼津市では隣接していればどこの学校へも入学できるのですが、静岡市

の場合、どこの学校からの受入れを良しとしてしまいすと、児童生徒数の予測ができなくなりますので、小規模の小学校・中学校を合わせ小中学校という形にして、そういった教育に興味があれば市内のどこからでも来ても良いといった制度をとっているようです。

これを特定の学校に限定せず、どこの学校へ通っても構わないとしますと、例えば、うちの学校では来年何人が入学するのかが分からなくなってしまうため、限定した仕組みにしていると思います。

委員

今後の児童・生徒数の予測が令和5年まであります。恐らく1歳児まで遡り計算すると1学級の児童数、生徒数の算出が出来ますが、令和5年までに複式学級となる学校は出現しないと思われます。

ただし、それ以降に複式となる可能性があるかもしれませんが、現時点では分かりません。基本的に複式学級となった場合には、やはり色々な問題が出てきます。令和5年以降の予測はできませんが、例えば裾野市の今後のまちづくりをどのようにして考えていくのか、これもなかなか難しいことだと思いますが、この検討を令和5年を基準にやっていくのか、或いはその後を基準としてやっていくのか、そして裾野市のまちづくりがどのようにしていくのか、それによっては、その地域がまた盛り返したり、或いは衰退したりしますので、そのあたりの関わりが気になります。

委員長

前回の議論のときにも今が変わり際のため、少し将来予測が難しいという話がありました。また、今回資料として用意いただいた、この図が非常に分かり易いかと思います。当面大急ぎで対応する学校がこのあたりで、その後はしばらくの期間があき、そして立て続けとなりますので、議論の時間は実際にはまだあるかと思えます。

ただし、方針として複式学級は避けたいという考え方はあり得るかと思えます。学級規模に関しては、1クラスの人数が20人より多ければ、なるべく子どもの数が少ない方が教育効果が高い研究結果が出ておりますが、1クラス20人より少なくなった場合の研究結果はあまりありません。10人程度でもがんばっているところはありますので、例えば複式学級となる時点で少し考えるといった基準を一つ引いておくことは、大変大事なこともかもしれません。

なお、そのあたりの議論につきましては、次の「子ども達の学習環境としてあるべき姿」が、正にその部分に当たると思えますので、そこでもう一度、議論したいと思います。

前回ご質問いただいた点に関して、事務局から報告していただきました。

次に、本題であります、「子ども達の学習環境としてあるべき姿」、これはある意

味、学校の姿とはということになりますが、こちらにつきまして事務局から説明をお願いいたします。

(2) 子ども達の学習環境としてあるべき学校の姿とは

説明者：教育総務課課長代理

1. 小中学校の位置と校区
  - ① 小学校の位置と校区
  - ② 中学校の位置と校区
2. 大規模校・小規模校の長所と課題（一般的に言われている事項）
  - ① 学習面に関すること
  - ② 生活面に関すること
  - ③ 学校経営面に関すること
  - ④ その他
3. これまでの学校施設整備
  - ① 新設・分離校の整備
  - ② 増築・改築事業
  - ③ 耐震補強事業
  - ④ 大規模改造事業
  - ⑤ トイレ改修事業
  - ⑥ 受水槽改修事業
  - ⑦ 普通教室への空調設備設置事業
4. 今後の学校整備の考え方
  - ① 老朽施設の解消
  - ② 予防保全への転換
  - ③ 部位ごとの緊急整備の実施
  - ④ 部位ごとの緊急整備の実施
  - ⑤ 長寿命化改修の導入
5. 学校整備にあたり配慮すべき視点
  - ① 安全・安心な施設環境
  - ② 教育環境の質的向上
  - ③ 防災機能の強化
  - ④ 地域との連携
  - ⑤ 施設規模の適正化

について説明

## 【意見等】

委員長

この議題に関しては、色々な視点から議論ができると思います。

先ず、只今の説明に従い「小中学校の位置と校区、それから子ども達の通学の問題」等の点、「大規模校・小規模校の学校規模と抱えている課題」、「学校施設をどうしていくか」という三つの話がありましたので、この順にご意見をいただく方向で進めたいと思います。

最初に「小中学校の位置と校区の問題」について、ご意見をいただきたいと思えます。特にこの問題は子ども達の通学時間や距離とも関係がありますし、また地域ごとに色々な観点もあると思えます。

一般論で言えば単純になるべく近くに通えるようにという話になりますが、場合によっては、校区の線引きを変えるとといった話まで広がる可能性もあるかと思えます。このことは、地域ごとの事情もあるかと思えますので、別にこの地域でという話でも構いませんので、遠慮せずにご意見がある方は是非言っていただきたいと思えます。

### 「1. 小中学校の位置と校区について」

委員

校区の問題ですが、非常に校区と地域が密接に関わっています。例えば、私は富岡に住んでいるのですが、地区の一番南側に千福南という区があります。そこは、学校としては、西地区の学校が近いということで、子ども達は西地区の学校に通っています。しかし、保護者たちの区の属性は富岡地区となりますので、色々な行事を実施するにあたり、学区と地域の活動が少し離れていると、なかなか難しい点があります。

校区の見直しにつきましては、地域との関連があるため、できれば今の流れの中では、校区と地域はそのままとして、子ども達のこれからの成長や地域との関わりからは、保守的かもしれませんが、それをゼロにして考えるということは、なかなか抵抗があると思えます。

委員長

理屈としてはよく分かりますので、考え方としては一つ入れておきたいと思えます。もちろん、現状は近い方に学区を分けているということであれば、その考え方自身は生かされていますので、子ども達にとっては、近い学校に行くということと、学区と地域の区割りは基本的には一致してほしいということが両立できれば一番良いわけです。その二つの観点自体は、非常に大事であると思えますので、それは考えていきたいと思えます。

委員

通学距離が長くなるということで、私の家も歩いて30分くらいなのですが、新東

名の下で山の中のため、動物が出たりすることもあり、環境的にはとても良いのですが、30分くらいなので歩いていると段々と周りの友だちもいなくなり、最後は私の子どもだけになります。他の保護者の方々も一人になる場所が通学路の半分以上なので、やはり心配だということで、学校から少し離れた所に迎えに来ているようです。

しかし、子どもの健康のため、自分としては歩かせたいのですが、昨年も声掛けの事案がありました。女の子が三人いるところに声を掛けられた事案でしたが、女だから、男だからとか、一人だから、二人だからといったことに関係なくそういう事案がありますので、やはり親としては、ひと気のなくなるところには、防犯カメラを設置してほしいと思いますし、西部の学校ではポケベルみたいなものを全員に持たせているようで、そうした予防があると違ってくると思います。個人的には、多少お金を掛けても構わないと思いますので、例えば年度初めに2~3千円程度を集金して、そういうものを持たせることやニュースを見ていると防犯カメラもかなり高額なものもあり何百万もするようですが、通学路が長くなることによって、ひと気のないところや一人になってしまう所には、やはり必要ではないかと思います。

委員長

確かに単に距離ということではなく、安全という問題もありますので、その点につきましても、必ずしもバスで送るということではなく、何らかの形で安全確保してもらいたいということと適切な距離であれば子どもに基本的には歩いて通う点、自立をやはり促したいということですので、そういう意味では、単純にバス等で送ってもらえれば良いという話ではありません。

その点につきましては、色々な希望をお持ちの保護者がいると思いますが、観点としては非常に分かります。どういう形で解決するかにつきましては、色々な手段を考えなければなりません、登下校の安全という観点は、押さえておきたいと思えます。

委員

先程お話していた千福に住んでいるのですが、千福南の子ども達は西小学校に通っています。子ども会は、千福の子供会に入っていますので、区で行うドッチボール大会等は、やはり千福の子ども会ですから富岡地区の千福が丘小学校で行われますが、その子は西小学校に通っているのです、自分はいよいよと言って、参加を躊躇する事実があることを聞きました。そのことは、すごく寂しいと感じましたし、富岡地区は地域の方との交流が多いので、そういったことも踏まえ、何かもったいないなと思いました。

私の家からも小学校までが非常に遠く、遠いところは大体、道が危ない所が多いと思います。西小学校の方は、車の通りが多いため、多少歩道があります。しかし、こちらはほとんどありませんが、グリーンベルトを2本増やしていただいたことは、非常にありがたいと思えました。それでも先日私の息子がもう一步こちらだったら多分車に轢かれていたという状況がありました。そうしますと、自分で歩いて学校に

通ってほしいのですが、やはり何かあったらどうしようという思いがあり、雨の日はつい迎えに行ってしまう。学校に近い場所に居られればもちろん良いのですが、色々な関係で助かると思う反面、交通の面で危険な場所等、難しい面もあると思います。

委員長 登下校の問題は、きちんと確認してみないと分からないところがあります。こちらに小学校、中学校から4キロ・6キロ圏内という地図があります。これは、直線距離のため、その道がどうという実態なのかということまできちんと踏まえないといけないと思いますが、登下校の安全性については、今後どのように進めていくか絶対に必要な話となりますので、これは論点として残していきたいと思います。

委員 移動手段としましては、電車、バス、自家用車が考えられると思います。小中学校に通うために電車に乗ることはまずありませんが、例えば文化センターの利用に際して、深良駅ができれば電車で移動することもできますし、また登下校時にスクールバスの利用や保護者が送迎する場合には、駐車場を完備するといった環境を確保する点、学校までの距離が遠い子に対しては、そういった安全面を確保した整備も必要と考えます。

また、音楽会に関しても、きちんとしたホールで聴かせてあげたいのですが学校には、体育館しかありません。そのため、文化センターに行くにしても、富岡中学校や深良中学校は、文化センターに近いので徒歩で行けますが、東地区や西地区では、そこまでの移動手段は貸し切りバスとなりますので、金銭的に困難なため行けないという現状もあります。大きな校区を考えていくときには、まちづくりとしては文化的なレベルも上げていきたいし、校区の整備もしていきたいと学校が地域の核となっていくことは分かりますが、文化的な面でもどのように配置していくか、色々なものをつくるのに際しては、土地がないとできません。例えば東小学校でしたら今学校のある場所に造るのか、新たにどこかを開発して、向田小学校と東小学校を一緒にした学校を造るのか、また分校状態として向田小学校には1・2年生を通わせ、東小学校には3年生以上が通うような学校にしていくといったように色々なことが考えられると思います。移動手段として、スクールバスの件や鉄道ですと、御殿場線では納米里駅と裾野駅、岩波駅の三つの駅が裾野市には、関わってくると思います。また、将来的な開発がどの程度まで実現できるのかということも、大きく関わってくると思いますので、特認校ができ特別に小規模校に通うときには、電車を通えるといった、何か色々なことが絡んでくるのではと思われます。

委員長 確かに今まではどうしても家庭と学校を行き来することばかりを考えてきましたが、市内の色々な施設を学習のために移動するというのも考えられますので、単に家と学校だけの話だけではないことは、よく分かります。そして、どこに何がある

かと考えますと、非常に難しい問題となってしまいますが、公共施設自体が今の位置から動くということはあまりないとしますと学校側で工夫することになると思います。

そういう意味では、建て替えることや統廃合するといったときに、どこに建て替えるのか、統廃合するのかという点は、一度検討する必要はあると思います。建て替えの際に別の場所へとなりますと空いている土地があるのか学校によってケースバイケースとなるでしょうが、難しい点はあると思います。

事務局           やはり学校を1校整備することになりますとそれなりの敷地規模が必要となりますので、空地がどこにあるのか、確保できるのかといったことが課題になってくると思われます。

委員長           ただし、今の論点については非常に大事な点であると思いますので、仮に位置で解決ができないようでしたら、移動手段を何らかの形で整備することや、先程の発言でもありましたが、特区や学校から遠い子どもに関しては、迎えに来て良いことにして、そのための駐車場をきちんと整備するといった色々な工夫も必要かと思えます。

そういった、細かな気付かない点についても、ご発言していただき非常にありがたいと思いますし、そういうことも上手く触れていきたい問題であると考えます。

委員           子どもにとって大規模校が行きやすい子と、小規模校が自分らしさを発揮しやすい子といるかと思えます。大勢の中よりもこじんまりとした、20人、30人位の小規模校の方が勉強しやすいという子がいたときには、例えば須山小中学校で、そういった特区の申請をして、保護者が送迎したり、裾野駅に集まり、そこからスクールバスといった、何かそのようなニーズにも答えられる学校があってもいいのではと思います。

委員長           そのニーズをどう捉えるかということが難しいところです。先程の特区の話も、大体は大規模校から小規模校へは行けるとされていますが、逆に小規模校から大規模校へは良しとされていません。そのことも、裾野市ではどう考えるのかということは、論点の一つとしてあると思います。基本は大規模校から小規模校に行くことについては、それほど障害はないと思いますが、小規模校の子が大規模校に行きたいという話をどうしたら良いかということは、一概にどちらでも同じですということは申し上げづらいところはあります。

しかし、その観点は大事であると思いますので、やはり特区の話は、どのようなニーズがあり、市としてどう対応したいのかということは考えなければと思います。

## 「2. 大規模校・小規模校について」

委員長 大規模校・小規模校の話にちょうど議論が被ってきましたので、学校規模の関係について何かご意見がありましたらお願いします。

委員 今の子ども達の様子を見ていると、将来に渡って学校に部活動があるかといった難しい問題もありますが、中学校の部活動は子ども達が一番熱くなれるところです。しかし、現状では部活が成立しないような学校、大きな学校でもサッカー部員が二人しかいないとか、野球部が足りなくて連合チームをつくらなければならないとか、市内にもそのような対応をしなければならない学校が増えていますので何か解消できる方法はないのかという点があります。

それから、現状でも中学校区ごとに幼保小中連携教育ということで、緩やかな連携を実施している現状はあります。家庭科の授業として幼稚園に行ったり、或いは小学校の研究授業に中学校の先生が行ったり、中学校の研究授業に小学校の先生が来てくれたりといった形で、それぞれ交流を深めています。先程の話で学校を造る場所が固定されていると非常にこの話はしづらいのですが、さらにその交流を進めていき、小中一貫教育という考え方で視野に入れることは可能なのかということが一つあります。仮に一貫教育となったときには、これまでと違う側面が色々出てくるため、考えることが色々あるのかと思います。同じ位置、近い位置に隣接か併設をしませんと、一貫にしても連携にしても上手くいきません。過去に私は、小中学校が隣接している学校で緩やかな連携教育をやっていました。そうしますと、近いから交流も容易となり、例えば理科の先生の授業を小学校の理科の先生が、どうしても理科の実験が上手くいかないときに、中学校に来てその授業を教えてもらいながら小学校へ持ち帰り小学校の児童に教えたり、或いは音楽の先生が合唱のシーズンには、何時間か小学校に行き授業をしたりといった交流もできていました。

実際にそのようにするためには、小中学校が同じ場所、一貫校でないとなかなかできませんので、そういう点も含めて建設できる場所、場所がそうでないとしたときには、離れた所での一貫教育まで視野に入れられるのか、先程の不登校の話につきましても、私の考えではスクールカウンセラーが常駐、或いはスクールソーシャルワーカーが常駐しておらず、現在のように週に一日来るとか、二週に一回来るといった形では、実際のケアは本当に微々たるものにしかありませんので、常駐している人を配置できる点では小中学校が一緒であれば、養護教諭も複数になるといった、色々なメリットがあると思います。

委員長 色々な視点をいただきましたが、部活に関しては確かに色々今は苦しい時で、私の大学でも男子バレー部の顧問がいますが、大学でも男子バレーは潰れやすいと言われています。また、中学校ではお話にもありましたように連合で大会に出るといった仕

組みもあります。指導する側は大変となりますが、先程の沼津市の事例は部活の関係から隣の学区へ移る方が結構いるそうです。裾野市でもそういう形での異動を認めるのであれば、部活目的での異動は構わないと考えることができると思います。部活という視点があるということは一つ押さえておきたいと思います。

そして、小中一貫の件ですが、一貫するには確かに隣接しませんと基本的には無理です。いくつか、小中一貫の取組に参加したことがあります。小学校が複数校ありますと近い小学校と中学校は連携できますが、遠い小学校は完全に溢れてしまい、逆に差別しているような形となってしまう恐れがありますので、できれば一小一中で隣接という形が望ましいと思います。先程の静岡市の大川も井川も梅ヶ島も全部一つの建物の中に入れてしまい、もともとその学校は小学校も中学校も小規模のため、そうやって維持しようとした小中一貫となります。

しかし、大きな小中学校を一貫にして非常に大きな学校にすることは、学校敷地の問題からも少し厳しいかと思います。小さな小学校を中学校に、中学校を小学校に統合することは、多少敷地に余裕があれば大丈夫ですが、大きな小中学校が一貫校を造るためには、新たに広く用地を確保する必要もあり難しいかと思います。

そういう意味では、小中一貫について考えますと、どうしても小規模校をメインに考えることとなります。大規模校で小中一貫は当面は厳しいのではと思います。

教育長 施設を抜いた上で考えられるかという気がしますが。

委員長 近ければ良いのですが、遠いところで小中一貫としますと先生方の負担が大きくなりますので、それは避けたいと思います。しかし、小中一貫という観点は、やはりどこかで生かしたいとは思っています。

また、スクールカウンセラーなど、そういった観点も全く考慮していませんでした。現在のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーは、どういう配置となっているのですか。各校常駐ではないのですか。

事務局 現在は中学校区単位で基本的には、同じスクールカウンセラーが配置されており、中学校を中心に小学校にも行くというような勤務形態となっています。

スクールソーシャルワーカーについては、県からの配置が裾野市は一人のため、基本的に拠点を決めていただき、市で配置しているソーシャルワーカーと合わせて拠点校を中心に見ていただいている状況です。

委員長 スクールカウンセラーのニーズは大規模と小規模とは違うのですか。

事務局 抱えている問題の数がありますので、やはり大規模校では件数はありますが、小規模校も問題がないわけではありませんので、非常に人員が足りていないことが現状で

す。常駐していませんので、なかなか日常的な問題に関わりきれないことも課題としてあります。

委員 小中一貫に関して前回の委員会のときに、私は小学校と中学校は全然違う世界という話をしましたが、小学校は成績が3段階で中学では5段階の通知票に変わります。その他の小中学校の大きな違いとしては、中学校では先輩という縦の世界が生まれま

す。  
小中一貫に関しては基本的には賛成ですが、9年間は非常に長いのではと感じます。良い先生や良い友達に恵まれれば良いのですが、もしそうでないと非常に長いと思います。

委員長 9年間をどう分割していくかということは、色々なやり方がありますので、4.3.2とするのか、必ずしも9年間ずっと同じという形ではなく、建物の建て方によっては、1年生から4年生までと、中学1年まで、そして3年までと、棲み分けるように建物を建てることもできます。そのあたりは、小中一貫にするのであれば、何を指して小中一貫にするのかで工夫の仕方はあると思います。

そして、課題があれば特区のような制度を活用して異動ということも考えられると思います。しかし、小中一貫が全てバラ色ということではありませんが、一つの戦略としては考えても良いかと思います。基本的には小中一貫を進めるとなると、先ず建物の一体型として小規模校から始めることになると思います。そうなったときには、子どもの顔色も同じ、先生の顔色も同じのような形となり、子どもが上手いかなかったときにリスタートのチャンスがないように組んでしまうことは好ましくありません。

したがって、小中一貫をするのであれば、その点をよく考えて議論したいと思います。

委員 裾野市は三島市によく似ているところがあると思います。三島市の場合には、街中に中心部が集中していて、坂小学校だけが距離があるため特区を設けています。坂小学校の地域では、そこから学校をなくしては駄目だということで、何とか残すことを検討した結果が特区であったようです。

そうしますと、裾野市もそれに似た地域が須山地区であると思います。須山の地域としては、学校がそこないとどんどん衰退していく可能性がありますので、須山の地域をどうするのかということ、また全体的にみまると比較的中心部に学校が集中しているのですが、特区や小中連携等、色々なことはありますが、全体としてどのような方向で進めていくかということが課題であると思います。

委員長 小中一貫ということを全面的に押し出して各地区を考えていくことと、須山地区をどうするのかといったときに小中一貫を手段として用いるとでは、小中一貫の使い方も違うと思います。大事なことは市の方針、旗印としては良いとは思いますが、どちらかといえば、それぞれの地区の学校をきちんと活かす形、それが小中一貫である、或いは特区であるということであり、なるべく学校を活かすための手段として活用いただいた方が良いかと思います。

そういう意味では、その方針が決まったので、これで全部の学区を同じように運営しますということにはせず、特区や小中一貫といった色々と学校を活かす手段を選択するようになると思いますので、色々なアイデアがあるようでしたら、言っていただけたらありがたいと思います。

また、裾野市の特色から須山地区に関しても、きちんと検討していく必要があると思います。

委員 大規模校・小規模校の長所、短所とありましたが、多分小規模校におられる先生方は、小規模校のメリットというものを生かさなければということで教育されているかと思います。実際に前段で色々と話のあった、大規模校、小規模校という切り分けではなく、やはり通学の距離によるメリット、デメリットがあり、或いは学校の近くに住んでいる人と住んでいない人とでは、随分と違いますので将来的にも色々な意見が出てくると思います。

したがって、大規模校のメリット、小規模校のメリットという点よりもデメリットとならないようにしっかりとした配置となるようにすれば、皆さんに納得いただけるのではと思います。先程言いました長所と短所とは別の切り分けて公平に進めてほしいと思います。

委員長 単純に大規模校、小規模校ということだけで物事を考えようとは思っていません。色々な意見を伺いたく、通学の距離だけではなくて安全性の問題と言われれば、他の方法でカバーできることもあるかと思います。

したがって、こういうことも考えてくださいということを、是非あげていただければと思います。

### 「3. 学校整備について」

委員長 最後に学校整備に関して、これまで色々とやってこられたこと、これからの方針、学校整備において配慮することについてです。学校施設に関しては、先程の表にあるように、これから順に改修していかなければなりません、そのときに学校の校舎を造るのであれば、こういったことを考えてほしいといったご意見がありましたら、お

願いたいと思います。

市によっては、学校の中に地域の方が居られる部屋を設け、地域の方々が普段から学校に来て、学校の様子を見守ってくれるような部屋を造っているところもあります。

また、その地域の図書館や学校の図書室、調理室、音楽室を地域の施設としても使えるように平日と土日とでシャッターを閉めて、土日は地域の料理クラブが使えるとか、音楽クラブが使えるとか、平日は図書室に地域の図書館の機能もあるため、市から司書が配置されており人員面でも充実しているとか、そのように地域の施設と一体となった色々な学校の造り方、事例があります。

したがいまして、地域の学校にこういったものがあってくれたらといった点がありましたら、特に防災面の話もありますので、防災は地域によって全然意味合いが違ってくると思います。そういった防災面を含めて、この地域の学校はこういった機能を果たしてほしいですか、こういう設備を設けてほしいといった点が何かありましたら、是非お願いします。

委員 色々な地域の方が来る施設が学校であると思います。そういった中で、先ず思ったことは、私の地域の学校にはとにかく駐車場がありません。他の学校には、そんなにたくさんの駐車場があるのかと思いましたが、幼稚園も含めて行事の度に駐車場を確保することがなかなか難しい状況になっています。大きな課題となっており、近い時期にコミュニティセンターも改修されるそうなので、そうしますとその駐車場はしばらく使えなくなりますので、益々足りなくなる可能性も高くなり、今後どうしているかとも考えています。駐車場を設備と扱うかは分かりませんが、地域の方も含めて何が必要かと考えますと、駐車場を是非考えていただけるとありがたいと思います。

委員長 駐車場を確保するために、プールを上にあげるといった工夫をしているところもあります。今までは地域の方は近くに住んでいるから駐車場はいらないというところもありましたが、そんなことを言っている時代ではありませんので、駐車場は非常に大きな問題であると思います。

委員 駐車場だけではなく学校の周りの道路についてです。大渋滞となってしまうこともあり、交通整理が非常に大変です。ですから、一方通行とするなど車の動線を考えていかなければという点があります。

また、先程の事例にもありましたがクラブハウスのように地域の方が集える場所があったらいいと思います。今後コミュニティスクールが本格的となった場合、そのボランティアの方々が、ちょっとした休憩する場所があり、そこに行けば地域の方がいるとなると、子ども達もそこに行き、地域の方と関わることもできるかと思っています。

あとは、学校設備の一つとして一番大事な毎日子ども達が生活する教室です。教室の広さを少し広めに造ってほしいと思います。今はB版からA版に移行しており、

ランドセルもワイドになっています。仮にロッカーだけを大きくすると益々教室が狭くなりますので、あと1mほど広ければ良いかと思います。

それから、小中一貫校を造るとしたら南中学校を造っておけば良かったと、そのときは思いました。平成18年に新設校が出来たときに、南小校区の子ども達が西中学校に通うには非常に遠く、自転車を使う等、色々なことがありましたが、そのときに、小中一貫校を造るいいチャンスであったかと思いました。そこに中学校があれば、そのまま通えますし、西中学校では今生徒が増えているので、南小学校から来る子たちが南中学で小中一貫校になっていれば、そこでどうだったかということをおもいました。

委員長       あとになってあのとき造っておけば良かったのではとにならないように進めていくべきだと思います。また、教室の広さも基準があると思います。

事務局       以前は60㎡程度で、現在は70㎡程度であると認識しています。

委員長       教科書もワイド版となり、以前より大きくなっています。そうしますと、子どもが机の上に広げたときに、スペースが小さい等、色々なものが徐々に大きくなっていますので、教室の広さという点は頭に入れておきたいと思えます。

また、当初のコミュニティスクールは地域の方が学校を運営するという形で、なかなか上手く広がりませんでした。今では学校の方針を地域の方が支えるといった方向に少し変わってきています。地域性もありますので、地域の方が支えてくれる学校でしたら、そのようなスペースがあっても良いかと思えます。

委員       西中学校ですが、先程の車の件とも関係しますが、生徒の出入口と送迎で入ってくる車の出入口が一か所しかありませんので、出来る限り歩いての登校を促していますが、雨天の時はかなりの送迎用の車の往来があります。そこに傘を差しながら歩いている生徒と混在している状況となるため、もし新しい学校を造るようなことがあれば、二か所の出入口が設けられ、ロータリーのように回れるような仕組みとなっていると良いのではと思えます。防災の面でも、引き渡しをする際に車で来ることが多いため、それに対応できるようにロータリー等を整備したらと思えます。

委員長       防災の問題もあります。学校によっては特別支援学級だけは、特別な所から出入りでき、車で迎えができる構造としたところもありますので、色々な工夫ができると思えます。

委員       二つお願いします。

一つは、保護者と子どもが現在は多様化していますので、信頼関係はすごく大事なことだと思えます。自分の子どもの家庭訪問が、今年からなくなりました。昨年末

では2学期の面談は希望制でしたが、希望制もなくなってしまい、面談が1回だけになりました。また、授業参観を見ますと、授業参観には来るのですが、懇談会は帰ってしまい30人位のクラスでも多くて10人ほど、少ないと3~4人位が残る程度となっています。先生達の勤務時間の問題もありますが、私としては家庭訪問や面談は、カットはしてはいけないところではと思います。1学期の終わりにありましたが、やはり先生から子どもの話を聞きますと、家とは違う姿、この子は学校ではこうやって接しているのかということがよく分かりました。寝ている時間を除けば、家にいる時間よりも学校にいる時間のほうが長いので、やはりもう少し学校での状況を知りたいですし、先生達とも話がしたいとも思います。

もう一つは、娘がいますが、入学式に一度スカートを穿いたきり、その後はずっとズボンを穿いています。今から中学校にいくとスカートを穿かなければいけないと言っていますが、都市部では女子の中学校の制服が、ズボンかスカートを選べるようです。そのため、ジェンダーフリーの考え方を少し聞いてみたいのですが。

委員長 何かそういう視点で、方針等がありますか。

事務局 ジェンダーの問題は、人権問題と含めて考えておりますが、正直なところそういった問題があがってきたときに考えるというところで、先行してこちらから、こういうのはどうですか、こういうのは自由ですといったところまで至っていないのが現状となります。

委員 先ず、そちらに中学校の6キロ圏内図がありますが、それは、学区がキロ圏内の方が通っているという解釈ですか。

教育長 学区等を決める一つの目安となっているものです。

委員 それでは、須山小学校と富岡第二小学校が一緒になってもいいと、学区内ではいいということですか。

教育長 距離の話だけでは、今おっしゃったとおりです。

委員 私が小学校の頃は、富岡第二小学校と一緒に修学旅行に行った経緯がありました。子どもの頃に伊勢の方に行った記憶もあります。今では中学校の修学旅行は、京都・奈良方面、広島へ行っている学校もありますが、それぞれ単独で行っています。昔は、三島駅に集合して、裾野市の中学校どうしで新幹線に乗った記憶があります。そういった交流が減ってきていると思いますので、何か情報提供がありましたら教えていただきたいと思います。

また、各学校、例えば富岡中学校は一番校区が広いかと思いますが、バスで通っている生徒がどのくらいいるのか、東中学校、西中学校は自転車で通っている子がどのくらいいるのか、把握ができていれば今後歩道の関係や子ども達の交通事故等を減らしていくという課題もありますので、把握していただきたいと思います。

須山地区にも十里木というところがあり、最近では児童生徒を保護者がほとんど学校へ送っていると思いますが、ある共働きの家庭の何人かはバスで通っています。しかし、雪が降ったりしますと道路も渋滞しますので、そういった点からも把握していただきたいと思います。

あと、小学校にはどこの学校もプールを完備していると思います。夏に一生懸命みんな真っ黒になるまでがんばっているにも関わらず最近では市営プールが休業して、水泳大会も中止となっているそうです。そのへんも踏まえて今後につきまして、分かる範囲で教えていただければと思います。

委員長 通学に関しては、直ぐに回答が出ますか。

事務局 手元に資料がなくて申し訳ありませんが、バス通学は富岡と須山地区の学校です。それぞれ、距離に応じて、一定の距離以上の児童生徒に対しては、バス通学の補助金を出しております。自転車に関しましては、東、西、富岡中学校で許可制度としてありますが、西中学校が一番対象は多いと思います。東中学校はほとんどなく、富岡中学校も数人程度です。

また、現在行われている修学旅行はそれぞれの学校で、目的・目標をもって取り組んでおりますので、もちろん交流を最初から目的とすれば良いのかもしれませんが、それぞれの学校で目的をもって行うものですので、なかなか交流ありきではないというところが現状です。

委員長 そういう意味では、水泳大会も同じですか。

事務局 水泳大会は、今回施設の問題もあり、その代わりの場所として学校で実施できないかを模索をしましたが、熱中症の問題や駐車場の問題等、安全面の確保も含めまして、今回は行わないという決定をしました。

委員 先程、おっしゃっていたように挨拶運動の際に学校の前に立たせていただいていると、出入口が一か所しかありませんので子ども達の危険な場面を見る機会も多いため、本当に出入口が複数あれば良いと思います。

また、音楽をやっている友人がおりまして、西中学校でも以前行われていたと思いますが、地域の先生を招いて行う授業、講座があったら良いと思いました。

あと、昨年までは行っていたのですが、中学生の読み聞かせにつきましても今年は

少し色々な事情があったかと思いますが、中学生でも読み聞かせは、良いこともあると思いますので、またやっていただく機会があったらと思っています。

委員長

中学生の読み聞かせを行っているところもあります。

挨拶運動のときに、子ども達が登校する際に先生方の車もありますと子ども達を先に入れてといったようになると思います。私の地域もそうですが、道路事情もあり、なかなか上手くいかない時がありました。

そうしますと、どうしても子どもを止めて車を通す、特に地域の方の車は停める訳にはいきませんので、そういうところも地域と上手く棲み分けができる関係がつけると確かに良いかと思っています。

学校のことを考えるとどうしても、学校の中だけをどうしても考えてしまいますが、地域との上手い棲み分けのようなことを考えていくことも必要かと思っています。

本日も色々な観点から色々な話を出していただき、確かに学校のことを考えるとやはりかなり色々なことを考えなければいけないということは分かりました。

本当に色々な観点、論点から意見を出していただきありがとうございました。

### (3) アンケート調査内容の確認

説明者：教育総務課課長代理

#### 目 的

当委員会での調査・検討作業を進めていくことや、次年度に予定されている次期教育振興基本計画策定作業を進める上で必要となる、ニーズ等の把握や今後の教育施策策定等の基礎資料とするため、市民を対象とするアンケート調査を実施するもの。

#### 調査概要

- ① 小学校5年生 489人と中学校2年生 446人（計 935人）
- ② 前記①の保護者（935人）
- ③ 一般市民（800人）
- ④ 就学前の児童（年長児）を持つ保護者（約500人）

①・②・④は学校、保育園、幼稚園にて配布・回収、③は郵送配布・回収調査を行う。

※調査項目は、第1次教育振興基本計画策定の際の項目をベースとし、これに「学校のあり方」に関する事項を追加する。

#### アンケートの配布・回収時期

- ・9月発送、10月回収 予定

「学校のあり方」に関する追加設問事項

- ・問1～問7 7つの設問を追加

【意見等】

委員長 時間の関係でいただいたご意見は、事務局で引き取って検討していただいた上で実施という形になると思いますが、資料をご覧になって、特に保護者の方として、これは答えにくい、もっとこのようにしたらといった点がありましたら、ご意見をいただきたいと思います。

委員 問5に望ましい通学距離、時間とありますが、括弧して通学時間とありますので、30分以内や45分、1時間等、最低限認められる時間の表示もあってはどうかと思います。

委員長 特にバスや自転車の使用を考えたときに距離よりも時間になると思いますので、少し検討させてください。

委員 私は④の年長児を持つ保護者ですが、もし自分の第一子が年長児だった場合、このアンケートを受け取ったときには、あまり答えが書けないのではと思いました。まだ、小学校がどんな感じなのかも全然分からない中、一体どのような基準でここに○をつけて良いのか、希望となってしまいますが、それでも役に立てばということで回答するしかないと思いました。

それと、小学校に息子が入学したときに、幼稚園と小学校のギャップ、こんなにも幼稚園と小学校は違うという差を非常に感じました。したがって、今からこんなことを言うことはどうかと思いますが、小学校1年生の保護者に今の小学校に対してどうかという意見を求めると、もっとこうしてもらいたい、こうしていただけると安心できるといった、色々な意見が出てくるのではと思いながら見ていました。

委員長 今回、この資料は児童生徒の保護者向けアンケートとなりますが、これは基本的に園児を持つ保護者に対しても同じなので、少し今のご意見は考えていただければと思います。

また、9月3日の月曜日までに、ご連絡いただければ、それを受けて検討する形でよろしいでしょうか。それでは、お持ち帰りいただいて、少しこの辺りが気になる等、お気付きの点があれば教育総務課宛に連絡いただければと思います。

事務局 ただし、全ての委員の皆さんの意見を反映できるかということ、難しいと思いますので、その点をご理解いただきたいと思います。

委員長       ある程度主旨等は考えながら、それでも答え易い形で工夫したいと思います。それでは、申し訳ありませんが、お持ち帰りいただいて何かお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。よろしくお願いいたします。

#### (4) 次回委員会の開催日

説明者：教育総務課

                  次回の委員会は、11月29日（金）午後3時から 市役所4階402会議室にて開催。

#### 【意見等】

委員長       そうしましたら、次回の委員会は11月29日の午後3時から市役所4階402会議室でお願いします。

                  予定されていましたが4つの協議事項につきまして議論を終えましたので、議事を事務局にお返しをします。

事務局       村山委員長、ありがとうございました。それでは、次に「その他」となります。はじめに、事務局から連絡をさせていただきます。

#### 5. その他

- ・第1回裾野市の教育のあり方検討委員会の議事録の確認
- ・市ホームページへの議事録の公開について

説明者：教育総務課課長代理

#### 【意見等】

委員       ホームページには、発言者の氏名は出るのでしょうか。

事務局       市ホームページへの掲載に際して発言者の記載方法に留意して公開していくことを想定しています。

事務局       氏名は載せないで、委員という表記で掲載したいと考えております。事務局で保管する議事録には各委員の名称を記載したものを保管しますが、ホームページ上では、氏名を抜いた委員という表記で掲載させていただきたいと思います。

事務局        そのような形で、準備が整い次第、市ホームページに公開させていただきますので、  
よろしくお願ひします。

## 6. 閉 会

教育部長        長時間にわたりありがとうございました。

                  次回の日程につきましては、11月29日（金）となりましたので、よろしくお願ひ  
いたします。また、事前に開催通知や資料等の準備が整いしだい送付させていただきます。

                  以上をもちまして、「第2回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を閉会いたします。

                  本日は、どうもありがとうございました。

17時00分 会議終了